

第4回滋賀県首長会議の協議テーマ

テーマ：道路交通ネットワークについて

趣旨 本県の交通は、国土幹線交通路の要衝として、地形、気候、立地が良好で、災害も比較的少ない県土である。このことから内陸型工業団地の立地も進み発展してきている。しかしながら、アクセス道路の整備が十分でない中で、交通量の増加による一般道路への大型車両の混入率が高く、慢性的な混雑や生活環境に負の影響が大きくなっている。

人口減少や地域創生が進む中で、各自治体が生き残りをかけて、行政の体力をつけようと地域活性化をはじめ、魅力あるまちづくりを目指して諸政策に取り組んでいる。これらの骨格となるのは、道路交通網の整備推進であると考ええる。

特に地域発展に重要な幹線道路については、将来を見据えた、防災・減災対策として国土グランドデザイン2015や国土強靱化計画に寄与する信頼性の高い幹線道路の整備が求められている。他府県にも負けない今後の道路整備の促進について考え方を示されたい。

現 状 高速道路 全国でも先進的な地域
名神高速道路、北陸自動車道、京滋バイパス、新名神高速道
直轄国道整備率 全国平均63.7% 本県45.4% 全国33位
県管轄道整備率 全国平均59.9% 本県53.5% 全国30位
(直轄国道 国道1号、8号、161号を長年整備促進に取り組まれている。)

スマートIC 湖東三山スマートIC (H25年10月に開通)
蒲生スマートIC (H25年12月に開通)
新名神大津スマートIC (事業中)
小谷城スマートIC (事業中)
多賀SAスマートIC (調査中)

道路整備のストック効果

新名神高速道路・・・甲賀地域では新規工場立地件数が大幅に増加

国道1号・・・大規模小売店舗が増加、地域経済の活性化が期待

名神高速道路へのアクセス向上のより、事業・物流の拡大に期待

☆ 道路整備により地域のポテンシャルを活かし、地域の発展に効果大。

生き残りを掛けた自治体の諸政策

人口減少・・・工業団地造成による雇用の確保と定住化

地域経済の活性・・・観光資源の活用(忍者等)

☆ 各自治体が高速道路やスマートIC等道路関係の整備が進んだことで、道路のストック効果を活かして地域活性の施策に取り組んでいる。

＜—いかに— 滋賀県の経済活動を活性化する国土幹線道路の早期整備＞

○新名神高速道路、スマートIC

【名神開通によるストック効果】
 <写真で見えるストック効果>

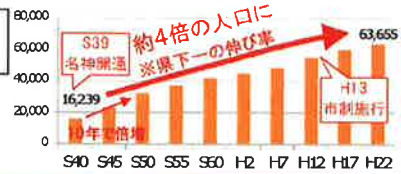
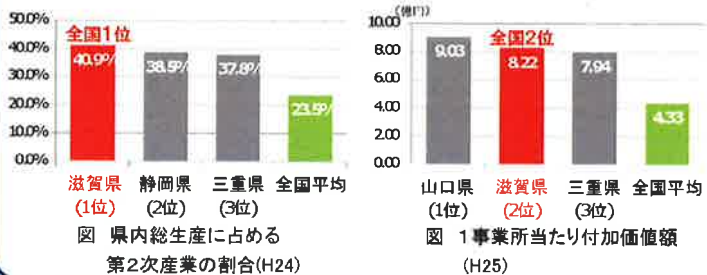


図 滋賀県における事業所数(製造業)

滋賀県は全国有数のものづくり県



ストック効果の“元祖”

名神開通により全国有数のものづくり県へ発展

【新名神開通によるストック効果】

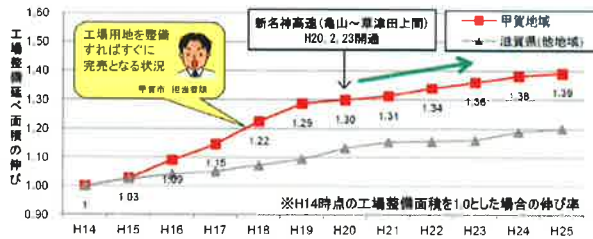


図 甲賀地域の工場整備延べ面積の伸び率推移

【スマートIC開通によるストック効果】



写真 地域振興施設「湖東三山館あいしょう」

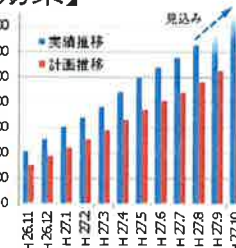


図 湖東三山館あいしょう 累計来場者数



○新名神高速道路の早期整備およびスマートICの整備促進によりストック効果を発現 → 県内、近隣府県の経済活性化

○直轄国道

■国道1号

国内屈指の優良企業が立地



写真 大津中心部の渋滞状況

渋滞で
ままならない
産業活動

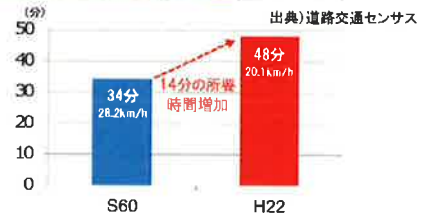


図 大津中心部～栗東中心部(国道1号)の所要時間

国道1号バイパス(栗東-京都間)が必要

■国道8号

慢性的な渋滞により、企業誘致が難航 → 地域経済活性化への悪影響



図 国道8号(彦根市～守山市)

○滋賀県内の経済活動をサポートする、直轄道路(一般国道)の早期整備が必要